



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/14 (月)	+ 300	▲ 200	+ 100	国庫短期証券発行償還 (3M) 源泉税揚げ	国債補充供給 + 1,700		日：鉱工業生産 (2月)
4/15 (火)	トン	+ 78,000	+ 78,000	国債発行償還 (個人) 年金定時払い			
4/16 (水)	トン	▲ 10,000	▲ 10,000	国債発行 (20年)	共通担保 ▲8,000		米：小売売上高 (3月) ：鉱工業生産 (3月) 欧：ユーロ圏CPI (3月)
4/17 (木)	トン	+ 6,000	+ 6,000				日：日銀中川順子審議委員、群馬金融経済懇談会で講演 欧：ECB、政策金利発表 ：ラガルド総裁記者会見
4/18 (金)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	流動性供給			日：CPI (3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比8,900億円減少の527兆3,800億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行等の要因により増減し、11日は526兆3,200億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.477%~0.65%のレンジ、1M~3M物0.545%~0.75%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、17日に日銀中川順子審議委員、群馬県金融経済懇談会で講演、18日に全国CPI (3月) の公表。海外では16日に米小売売上高 (3月) と17日にECB政策金利発表とラガルド総裁記者会見、18日に米PPI (2月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.47 ~ 0.478
1M	0.55 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.58 ~ 0.80
6M	0.65 ~ 0.90

<レポ>

足許GC取引は週初+0.49%近辺で出合い。輪番オペのあった9日には、前場+0.47%まで低下したが、後場には再び+0.49%まで上昇した。その後は週末まで+0.48%~+0.50%の狭いレンジで推移した。

SC取引は2年460~468回債、5年155~177回債、10年355~370回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40台
CP 3M	0.60 ~ 0.70

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆4,800億円で、週間償還額の7,200億円を上回った。発行残高は先週末時点の21兆7,146億円から、4月10日時点で22兆549億円に増加した。発行市場は、石油製品、卸売業、小売業、電気業、不動産業で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物では、0.50%台前半から0.50%台後半での出合い、3か月物では0.50%台後半から0.60%台後半での発行気配が見られた。

来週の償還額は6,500億円となっている。発行市場は、償還額と同程度の発行が見込まれる。発行レートは、米国の関税政策により金利の先行きが不透明となり、1か月物に関しては0.50%台前半から0.50%台後半、3か月物に関しては0.50%台後半から0.60%台後半と、幅広いレンジで投資家が運用金利を見極める局面を予想する。

<TDB>

4月9日の6M (1298回債) の入札は、最高落札利回り0.4237% (前回債0.4533%)、平均落札利回り0.4137% (前回債0.4373%) となった。

4月11日の3M (1299回債) の入札は、最高落札利回り0.3572% (前回債0.3974%)、平均落札利回り0.3468% (前回債0.3870%) となった。

来週の入札は17日に1Y、18日に3Mが予定されている。